

- 連研のための研究会□1
- 紀南組の寺院を視察巡回□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 寺族女性研修会、響流十方□6
- 行事予定□7
- つれもて聴こら□8



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の鷲森別院

2021年(令和3年)
4月1日
第127号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷲森1番地 本願寺鷲森別院内 TEL(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

話し合い法座の意義学ぶ

鷲森別院で連研のための研究会

教区内の僧侶や門徒推進員が熱心に研修



2年ぶりの開催となる「連研のための研究会」が3月5日に鷲森別院本堂で開かれ、教区内の僧侶や門徒推進員など33人が参加した。

研究会では、「なぜ、連研を取り組んでいくのか」と話し合い法座の意義」と題し、連研中央講師の石崎博毅師（大阪教区天野南組大圓寺）が講義。石崎師は、1978年（昭和53）に始まった連研（門徒推進員養成連続研修会）の歩みを振り返った上で、話し合い法座の意義について次のように話した。

話し合い法座によって分かったのは、私も含めて、僧侶は話を聞くのが下手だということ。僧侶の前ではご門徒が本音を話せない状況に陥っている場合がある。ご門徒と僧侶の宗教に対する意識が懸け離れているということも、話し合い法

座に苦悩を苦悩として語り合える場が佛寺でありたいとの思いから始まったのが「話し合い法座」。僧侶は話す側、門徒は聞く側という思い込みを捨て、一緒に車座になって、み教えに聞き尋ねる場です。



講師の石崎博毅師

「み教えを聞く出発点は、自分自身の苦悩です。しかし、ややもすると苦悩を苦し、ややもすると苦悩を苦



鷲森幼稚園 本堂で卒園式

鷲森幼稚園では3月19日、鷲森別院本堂で卒園式を挙げる。1人ずつ卒園証書を受け取った。新型コロナの影響で、保護者の参列人数を制限しての式。卒園児104人は、園との別れに寂しそうな様子を見せながらも、夢と希望を胸に、思い出いっぱいの幼稚園から羽ばたいていった。

座によって知らされる事実。『阿弥陀さま』『すくい』という言葉にしても、どう伝わっているかを確認したことがあるでしょうか。寺院や教団のあり方に対する思いの違いも、お互いが言葉にしてみても初めて気

日高組連研が10日再開予定

日高組の第10期連研は、2019年2月に第7回の研修を行ってから休止していたが、4月10日に日高別院を会場に再開予定。有田南組の第9期連研は、2019年10月に第4回開催後休止、再開時期を協議中。和歌山・和歌山西・和歌山北・海南の各組では次期連研の準備を進めている。付かされることです——」講義では、昨年3月に発刊された『連研ノートE「改訂版」』の趣旨説明、2021年度中に発刊予定の連研のガイドブック『連研のスヌメ』（本願寺出版社）の紹介も行われた。

紀南組の寺院を視察巡回

過疎対応支援員

楠原晃紹

2月5、6の2日間、紀南組18カ寺のうち14カ寺を廣澤教務所長と共に視察巡回し、現況をお聞きする機会を頂きました。

住職が不在の寺院もありましたが、立地条件や環境、面積を占めているにもか

集落の状況などを観察しながら南下していくうち、次に寺院間の移動距離が長くなっていききました。

教区内14組のうち、紀南組は和歌山県のほぼ半分の



古座川町・西法寺の護持に尽力されている総代の南有助さん(中央)と視察に同行した廣澤教務所長(同寺本堂で)

わらず、寺院数では教区内270余カ寺のうち、わずか6・5%に過ぎません。ほとんどの寺院は、海岸に近い市街地の比較的人口の密集している地域にあり

ます。しかし、昨今は後継者がなく、ご門徒の方々も減少している寺院が少なくありません。

過疎の山村、門徒が寺守る

お念仏ひろまった陰に 妙好人・長兵衛の存在

今回の視察訪問では、紀南組で唯一、山村部に位置する古座川町西川の西法寺さまを訪ねることを第一の目的に掲げておりました。

古座川町は、1975年(昭和50)には人口5300人を数えましたが、その後10年ごとに数百人規模で人口が減少している過疎地域です。現在の人口は25

00人余りで、わずか50年足らずで人口が半分以下となつていきます。

すさみインターチェンジから険しい山道を1時間近く走り到着した西法寺さまは、ここ数10年も住職が不在で、数10き離れた串本町古座・善照寺の山本昭隆住職が住職代務をされ、ご門徒さん方の努力で護持され

ているお寺です。門徒総代の南有助さんから、かつては日曜学校が盛んだったこと、お寺から4.5き程離れた集落から大勢の方が歩いて参拝されたことなどをお聞きしました。

今では小学校なども廃校となり、高齢者ばかりの村になったとのことで、今後の寺院運営には不安が募るばかりだと漏らされました。

古座川沿いを下った善照寺さまでも、山本住職から西法寺さまについてお話を伺いました。

それによれば、江戸後期ごろ現在の古座川町真砂に善照寺のご門徒で、仏長兵衛と呼ばれた妙好人(篤信の念仏者)・雑賀屋玉置長兵衛という方がおられ、この方の影響で西法寺を中心とした山村部にお念仏が広まったとのこと。



西法寺本堂

本堂の仏華には南さんの自宅のセンリョウが活けられ、日頃から内陣のお荘厳や掃除などを小まめにされているのがひと目で分かりました。

山本昭隆住職が現在もひっそりと暮らし、お寺の護持にご尽力くださっていることに頭が下がるといって下さりました。

長兵衛の玉置家は一昨年後継者が途絶え、代々の墓碑数10基を整理されたそうですが、山本住職が妙好人・長兵衛の墓碑だけは後世に残したいと、善照寺の境内に移してその遺徳を顕彰されています。

(日高組妙願寺住職) ※妙好人・長兵衛の逸話は、西本願寺の学僧・僧純が1842年(天保13)から1858年(安政5)にかけて刊行した『妙好人伝』(全五篇)の四篇(1856年刊行)に収録されています。詳しくは別の機会に紹介します。(編集部)

〈④面に紀南開教布教記事〉

新

祖蹟点描

29 六角堂③

夢告(夢のお告げ)を授かること寺院に参籠(まんろう)しても参り)するといふ行為についてイメージを膨らませておくため、今回は『石山寺縁起』を参照したい。

石山寺(滋賀県大津市)といえは、平安時代からその本尊である如意輪観音菩薩が広く信仰され、庶民だけでなく貴族や武士もこぞって参拝したお寺。

その開創の由来や本尊のいわゆる霊験の数々を物語る詞書と、それらに対応する絵で構成された全七巻三十三段から成る絵巻が、

『石山寺縁起』である。紫式部が石山寺に参籠して『源氏物語』の構想を得たとの伝承は有名だが、巻四の第一段には、その場面が描かれている。

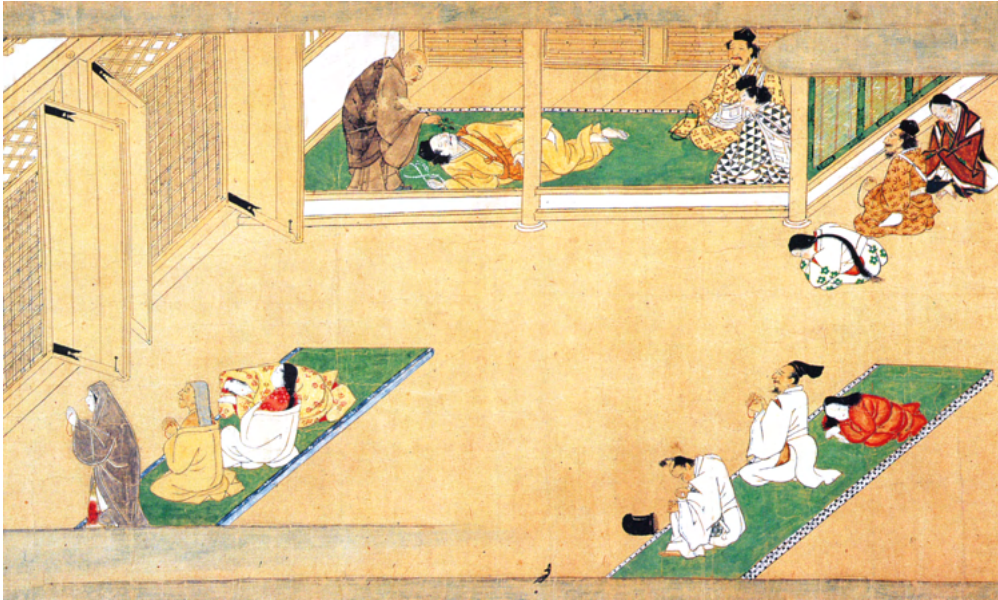
『石山寺縁起』には、本堂に参籠して夢告や夢を授かるというエピソードの描かれた場面が、6つある。

①普賢院の僧淳祐、夢から覚めると美しい顔立ちで明敏な性質になる(巻二の第一段)。

②藤原道綱の母、夢によって夫婦のよりを戻す(巻二の第三段)。

③行尊僧正、夢に櫛の一房を得る(巻四の第六段)。

④藤原国能の妻、夢のなかで如意宝珠を授かる(巻五の第一段)。



『石山寺縁起』に描かれた参籠の様子

礼拝しつつ夢の知らせ待つ

⑤伊勢の松君の長者、ハンセン病の娘を連れて参籠、夢を見て娘の病いが治る(巻五の第四段)。

⑥園城寺(三井寺)の円兼僧都、夢によって重病が癒え、長寿を保つ(巻七の第一段)。

③のエピソードの行尊(1055~1135)は、平安時代後期の天台宗の僧で、歌人としても知られた人物。この場面の詞書を現代語にしてみる。

——平等院行尊僧正(参議源基平の息子)は一夏の間(90日間)、岩間寺(石

六角堂

場所 京都市中京区六角通東洞院西入堂之前町248
電話075(2)212686
交通 京都駅から地下鉄烏丸線で6分、「烏丸御池」駅下車。同5番出口から南へ徒歩3分。

山寺の近く)に参籠されていたが、一晚おきに当寺(石山寺)に参詣し、その都度三千三百三十三度礼拝された。ある夜、疲れのためか少しの間気を失ったが、夢とも現ともなく本堂の御帳の内から黒衣の老僧が出てきて、口に青蓮華(青色の蓮華で仏や菩薩の目に例えられる)の一房を差し入れたと見た。そこで自分の口をさぐると、青い櫛の葉が一房あった。それからは願ったことがたちまちに成就したという(後略)。

前回見た『今昔物語集』の説話でもそうだったが、観音菩薩の化身とおぼしき存在が僧として現れている。絵を見ていただくと、中央上部の局と呼ばれる本堂の一角を仕切った部屋のなかで修験者の姿で横たわっているのが行尊。その左の人物が、行尊の夢に現れた老僧である。局の内外には従者と思われる人物が5人いるが、当然ながら老僧の存在には気付いていない。

実際の参籠の様子が伺えるのは、絵の手前半分である。行尊の話とは関係なく本堂に参籠する老若男女の姿が描かれている。左手内陣の本尊に向かい手を合わせ、思い思いに何事かを念じる人、座ったままうたた寝をしている人、腕枕で眠り込んでいる人。

参籠した人々は、礼拝しつつ、いつしか眠りに落ち、目が覚めればまた礼拝するということを繰り返しながら、観音菩薩へと思いが通じた証しが『夢の知らせ』として訪れるのを待ったのである。(本紙編集部)

布教団が支援し法座開く



新宮市専光寺で「紀南開教布教」

過疎地域での法座開催を支援するため、和歌山教区布教団が年に一度行っている「紀南開教布教」が2月6日、紀南組専光寺(新宮市新宮、佐々木実結住職)で開かれた。

3年続けての法座開催となった専光寺では、同寺門徒、組内僧侶など15人が本堂に参集。午後1時30分からの正信偈・和讃六首引のお勤めと廣澤敬典布教団々長のあいさつのあと、同団委員の長谷川義則師(海南組安養寺住職)の法話を約1時間聴聞した。

長谷川師は「何の修行もすることなく、信心もな



講師の長谷川義則師

青色青光

仏青がりモートで合宿

浄土真宗本願寺派仏教青年連盟が主催する研修会、2020年度「仏教青年連盟本山合宿」が2月13日、オンライン会議システムでの開催が実現した。

Zoomを利用して開催され、和歌山教区の2人を含み仏青会員11人と、中央委員・指導講師17人の合わせて28人が参加した。

同研修は、全国の仏青会員同士が思いを共有・共感し、共に活動することで次世代の中央委員を発掘することを目的とするもの。

きを理解することは到底できませんが、阿弥陀さまが救い取ってくださったこの私のいのちを、生き抜いていきたいと思います。」と話した。

法座を終えて佐々木住職は、「過疎化によって寺院運営が厳しくなり、報恩講法要すら途絶えてしまった専光寺において、皆さんと一緒に勤めをし、ご講師のお説教に聴き入って

いるという縁が成り立っていることに、毎回、夢を見させていただいているような感覚になります。お力添えをくださいました方々には、感謝の念が尽きません。『これからも楽しみにしているからね』と喜ぶご門徒の姿を通して、寺院の役割というものを深く学ばせていただいております」と、喜びの感想。



パソコン画面を通して意見交換

「み教えと差別の現実」テーマに

海南組で人権啓発研修

海南組の人権啓発推進僧侶・寺族研修会が1月30日、同組光徳寺(和歌山市内原、加藤義秀住職・組長)で開かれ、組内住職・衆徒ら10人が参加した。

研修会では「『み教えと差別の現実』について」と題して、岩本智依師(同和教育局振興会研究員、中央仏教学院講師、奈良教区奈良組常連寺)が講義。

岩本師は、聖典のなかに、現代の感覚では差別語に該当する言葉があることを示し、

「観無量寿経」には、阿闍世王が母・韋提希を殺そうとしたとき、臣下である耆婆と月光がいさめて、「これ梅陀羅なり」と言ったとあります。梅陀羅とは古代インドのカースト制度において、四姓の身分外におかれた最下層の人々「チャンドラ」のことです。

耆婆と月光は、母を殺せば梅陀羅と同じだと言いつつ、阿闍世はその言葉で殺害を思いとどまった。つまり、耆婆も月光も阿闍世も差別者だった。

では、親鸞聖人が『浄土和讃』の一首に「耆婆・月光ねんごろに 是梅陀羅とはちしめて」と表

現されたのは、この差別を容認されたからなのか。そうではなく、これは親鸞聖人が阿弥陀さまのご本願に出遇うことで、私自身もそのような差別をしてきた、阿闍世とは私自身のことだったと気付かれ、ご自身の差別性に向き合うことによつて発せられた言葉だった。

岩本師を招いての同様の趣旨の研修会は、昨年12月21日に和歌山教区でも開催され、37人が参加した。



鷺森別院で春季彼岸会勤まる

鷺森別院では3月20日、本堂で春季彼岸会を勤修した。新型コロナを考慮し、法要時間を短縮。午後1時30分から三浦良成師(有田市港町・極楽寺)の法話を約20分間聴聞。その後、仏説阿弥陀経をお勤めし、午後2時30分に終了。この法要にはご門徒ら19人が参拝した。

魅力を発信している武田正文師を講師に迎え、「YouTube」で武田正文さんと仏青ゆるふわトークのテーマで行われた。

参加者は、「仏教」「煩惱」「どう生きるか」などの話題について、パソコン上に意見を出し合うことで、仏教の面白さと奥深さを再発見していた。

オンラインでビハラー全国集会

第17回ビハラー活動全国集会が1月30日にオンラインで開催され、ビハラー和歌山から会員8人が参加いたしました。

この集会は3年に一度、本来なら全国のビハラー活動者が本山に参集し、基調講演、少人数に分かれての分科会などが行われます。貴重な学びの場であり、大いに刺激を受けているのですが、新型コロナウィルスの影響で、YouTubeによるライブ配信のプログラムに変更となりました。

今回のテーマは、「願わ

れたいのちの物語を紡ごう」悲しみの中にある人びとにぬくもりを届ける」で、やまだようこ先生(京都大学名誉教授)による基調講演「喪失の語りーしなやかに生きるー」を聴かせていただきます。

やまだ先生は、「人は人生をいかに生きるか」とい

やまだようこさんが基調講演 いのちの「もの語り」が喪失体験の見方を変える



基調講演を受けてのシンポジウム。左から丘山願海、やまだようこ、野村康治の各氏(本願寺新報社提供)

う問いを、ナラティブ(もの語り)アプローチから研究されています。

人は誰でも人生の中で、喪失というつらい出来事に何度となく出会います。そのたびに、その意味を考え、周りの人々と語り合うことで「もの語り」を生み出し、その喪失体験の見方を変え、語り直すことで、人生をよ

りしなやかに生きていくようになるのであろう、と話されました。

講演をお聴きし、一人ひとりが一度しかない自分の人生のものを紡いでいる、ということに改めて気付かされました。

基調講演を受けて、丘山願海先生(浄土真宗本願寺派総合研究所長)、野村康

治先生(ビハラー活動推進委員会委員)が加わられたシンポジウムでは、僧侶には、つらい気持ちを抱えた人が、もの語りを紡ぐことができるように「ナラティブコーディネーター」になっていただきたいというお話がありました。

僧侶に限らず、私たちビハラー活動者は、この人なら話してもいいと思ってもらえるような関係性を築いていきたいものです。

人は一人では生きていけず、周り多様な人間関係を築きつつ、多くのもの語りを紡いでいるのでしよう。つらいとき、人生を伴走し、一緒にもの語ってくれる人がいれば、よりしなやかに生きていけると思えます。

やまだ先生の講義を、ビハラー活動者としてどう受け止め、そしゃくし、活動に生かしていくかということ、今後の宿題として頂いたと思っています。

(吉田敬子・ビハラー和歌山会長)

災害をテーマに 仏教中央研修会

仏教青年会連盟の中央研修会が2月14日にオンラインで開催され、和歌山からの2人を含む42人が参加した。

熊本・福井・兵庫からの活動報告によって、令和2年7月豪雨災害ボランティア活動など災害時の支援の取り組みについて学び、こ



モニターに向かい研修(別院会議室)

れを受けての話し合いを、4班に分かれて行った。

2021(令和3)年度和歌山教区一般会計歳計予算

歳入の部

款	費目	予算額	説明
1	教区賦課金	33,433,890	教区賦課金
2	宗派交付金	11,080,000	宗派・各種団体交付金
3	願記手数料	1,200,000	願記手数料(教区分)
4	回金	0	
5	雑収入	1,286,110	行事参加費、預金利息等
6	繰越金	6,000,000	
合計		53,000,000	

※教区一般会計歳出の部の「人件費」「水道光熱費、維持管理費」は、鷲森別院一般会計歳入の部「回付金」「人件費負担金」へ回付されます。

歳出の部

2021(令和3)年4月1日
～2022(令和4)年3月31日

款	費目	予算額	説明
1	実践運動推進費	9,950,000	実践運動関連並びに補助成費等
2	会議費	800,000	教区会、組長会、その他会議
3	宗会選挙事務費	50,000	選管委員会開催
4	教務所費	34,000,000	人件費※、事務費、負担金
5	維持費	1,700,000	水道光熱費※、維持管理費※
6	回金	500,000	各種特別会計へ回付
7	予備費	6,000,000	
合計		53,000,000	

2021(令和3)年度 本願寺鷲森別院一般会計歳計予算

歳入の部

2021(令和3)年4月1日
～2022(令和4)年3月31日

款	費目	予算額	説明
1	懇志	6,550,000	各種懇志
2	回付金	3,080,000	特別会計・教区会計※より回付
3	各種交付金	200,000	教化助成費
4	維持費	4,390,000	維持費、参与会費
5	負担金	33,570,000	人件費負担金※(教区・幼稚園)
6	雑収入	810,000	預金利息等
7	前年度繰越金	5,000,000	
合計		53,600,000	

歳出の部

款	費目	予算額	説明
1	法務費	1,910,000	荘厳費、法要費
2	教化費	1,130,000	常例布教、各種教化費
3	事務費	38,950,000	人件費、水光熱費等
4	会議費	100,000	責役・総代会
5	維持費	4,270,000	営繕費、保険料
6	積立金	2,000,000	営繕積立金、退職積立金
7	回付金	10,000	
8	予備費	5,230,000	
合計		53,600,000	

寺族女性会委員改選

和歌山教区寺族女性会では、任期満了に伴う改選で下記の委員が選出されました。任期は2021(令和3)年4月1日から2023(令和5)年3月31日までの2年間。

▽会長・加藤諭絵(和歌山西組万福寺)▽副会長・辻本典子(和歌山西組西念寺)、平林園子(有田南組福藏寺)▽会計・武内多江子(和歌山北組善勝寺)▽

寺族青年連盟委員改選

和歌山教区寺族青年連盟では、任期満了に伴う改選で下記の委員が選出されました。任期は2021(令和3)年4月1日から2023(令和5)年3月31日までの2年間。

監査・麻生晶子(海草組法照寺)、北山美和(日高組光専寺)▽委員・下間朋子(和歌山東組信榮寺)、齋藤友紀(加茂組青蓮寺)、藤澤勝美(海南組光澤寺)、中田三恵(伊那組教善寺)、三枝百代(有賀組日照寺)、菅原和代(有田北組教蓮寺)、津本千絵(御坊組天性寺)、山本友紀(紀南組善照寺)※敬称略

▽委員長・荻野龍裕(海南組浄國寺)▽副委員長・辻本真一朗(和歌山西組西念寺)、伊勢川貢平(伊那組玉川寺)▽会計・横出顕悟(和歌山北組教願寺)▽監査・杉山龍法(和歌山北組永正寺)、宇多真海(伊那組光明寺)▽委員・和田慈

仁(和歌山組眞光寺)、西岡顯道(和歌山東組蓮光寺)、小川眞史(和歌山西組松専寺)、廣田聡美(和歌山西組安樂寺)、山本龍法(和歌山北組浄永寺)、谷口寿博(加茂組安養寺)、岩清水成海(海草組西方寺)、雑賀 顕(有田南組善照寺)、岩本真憲(有田北組西明寺)、桒崎教信(日高組覚性寺)、川越顕之(御坊組正覚寺)、佐々木実結(紀南組専光寺)※敬称略(有賀組未選出)

響流十方

7~9月の催し

本山

7月20~22日 朝の法座
(大谷本願)

8月14~15日 孟蘭盆会

8月15日 戦没者追悼法要

9月18日 千鳥ヶ淵全戦没

者追悼法要(国立千鳥ヶ淵

戦没者墓苑からネット中継)

9月20~26日 秋季彼岸会
※本山の行事については、
ホームページ等で最新情
報をご確認ください。

和歌山教区

7月1日 研修部会(鷺森
別院)

7月6日 仏教婦人会連盟

清掃奉仕(鷺森別院)

7月9日 平和を希う念仏

平和を希う念仏者の集い

—全戦没者追悼法要—

とき 7月9日(金)

ところ 鷺森別院本堂

〈追悼法要〉 13:30~14:10

〈記念講演〉 14:20~15:20

講師 高橋克伸さん

(和歌山市立博物館元学芸員)

「和歌山市大空襲の証言について」 ～声の記録から～

各組3~5人の参拝者となるよう、ご協力を
お願い申し上げます。

仏教婦人会連盟委員改選

和歌山教区仏教婦人会連盟では、任期満了に伴う改選で下記の委員が選出された。任期は2021(令和3)年4月1日から202

者の集い(鷺森別院)

7月13日 常備会、寺院振

興対策委員会(鷺森別院)

7月14日 寺族女性会委員

会(鷺森別院)

7月20日 社会部会(鷺森

別院)

8月31日 ビハークサロン

(鷺森別院)

8月上旬 臨時教区会(鷺

森別院)

9月8日 布教団連続法座

「仏説無量寿経に聞く」

(鷺森別院)

9月11日 ビハーク和歌山

公開講座(鷺森別院)

9月13日 公聴会(鷺森別

院)

教区内各組

和歌山組

7月17日 組内会(鷺森別

4(令和6)年3月31日ま
での3年間。

▽委員長・中島淳子(海

南組光明寺)▽評議員、副

委員長・玉置明美(有田北

組浄念寺)▽副委員長・大

西悦子(和歌山組田明寺)

院)

和歌山東組

9月未定 組内会(未定)

海草組

7月3日 総代会委員会

(報徳寺)

日高組

8月7日 第10期門徒推進員

養成連続研修会⑨(日高別院)

教師

3月

清水光頭(御坊組専福寺)

4月

太田正信(和歌山東組玄通寺)

林義景(有田南組教専寺)

敬弔

雑賀久子(有田南組善照寺
前坊守・衆徒) 3月24日

ご生前のご活躍で尽力に
感謝申しあげ、謹んで敬弔
の意を表します。

▽会計・中島祐子(和歌山
西組寛円寺)、石川多枝子
(有田南組安楽寺)▽監査・
前田智子(加茂組安養寺)、
玉置文世(御坊組源行寺)
▽委員・林悦子(和歌山東
組信楽寺)、松本頼子(和

鷺森別院の催し

孟蘭盆会

8月15、16日、午後1時

30分からお勤め。その後、

午後3時ごろまで永原智行

師(日高郡田良町・教専寺)

の法話を聴聞する。

常例法座

7月15、16日、尾崎道裕

師(吉野郡下市町・實原

寺)。9月15、16日、多田

大順師(橿原市今井町・順

明寺)。いずれも午後1時

30分からお勤め、その後、

午後3時まで法話を聴聞。

(本願寺鷺森別院 和歌山

市鷺森1番地 電話073

42214677)

日高別院の催し

秋季彼岸会

9月25日、午後1時から

仏説阿弥陀経をお勤め。そ

の後、午後2時15分まで廣

澤敬典輪番(日高別院)の

法話を聴聞する。

(本願寺日高別院 御坊市

御坊100 電話0738

12210518)

鷺森テレホン法話

おにさん
(073) 422-0243

こころの電話

(御坊組専福寺)
(0738) 44-0874

つれもて 聴こら

「仏身円満にして背相なし 十方より来れる人みな面に対ふ」(註釈版聖典七祖篇751六)

このお言葉は、親鸞聖人が七高僧の一人と仰がれた善導大師が『般舟讚』のなかで仏さま方のお徳を讃嘆しておられる一節です。 仏さまのお姿には功德が満ち満ち、誰に対しても背を見せることなく、あらゆる

ることを表しています。

背を見せるとは、「背を向ける。相手の意志に従わない。同意・協力しない。無関心な、冷淡な態度を取

安部恵証

る」という意味を持っています。

会話をしているとき、もし相手に背を向けられたと

ひとりも漏らさぬお救い



よりのこのかたつねに没し、つねに流転して、出離の縁あることなしと信ず」(註釈版聖典218六)と、自身を捉えておられます。

や和顔愛語の生活を送るところか、自分の心の赴くまま欲望に走り、他人には目もくれない、そんないのちを繰り返してきたのです。 それはまさに、私が仏さまに対して背を見せ続けてきたということに他なりません。

私は、はるかな過去から今に至るまで、ずっと迷いの世界をさまよいつけてきたのです。その間、何度となく仏さまと出遇い、その教えを聞かせていただいたのかもしれない。

しかし、阿弥陀さまは、そんな私にも決して背を向けることなく、常に向き合いつけてくださっています。過去の仏さま方のはたらきから漏れてしまい、仏とすることができなかった私を、どうしたら救うことができるかを考え抜いてくださっているのです。

私に向き合い続けてくださる仏さま

るところから来る人ひとに、すべて正面から向き合われるということがです。

それは、いかなる者に対しても、分け隔てなく救いのはたらきを差し伸べられ

したら、私の話を本当に聞いてくれているのだろうか、何か私に不満があるのだろうかと不安になり、そこから不信感を抱くことになり

反対に、相手が話をしているとき、興味がないとき、相手に腹を立てているときは、背を向けてしまう私が入れられず拒否する心の表

れであり、ともかく「背を見せる」という表現は良い意味では使われません。そして、仏さまにも背を向けているのが、この私です。宗祖親鸞聖人は「曠劫

とは、その仏さまとの縁によって迷いの世界を離れ、仏と成ることができなかつたということでしょう。 仏さまの話を聞きながら

感謝のお念仏を申していくことが、浄土真宗の門徒のあるべき姿だと思うのです。(三次市君田町・善照寺) 鷲森別院二尊会法要の法話から

も、煩惱を抑え、少欲知足